

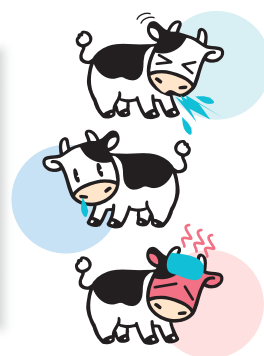
牛の呼吸器病に注意!! ワクチンで予防を

例年、冬季間の病性鑑定で牛の呼吸器病の検査依頼が比較的多い傾向にあり、最近目立ったのは牛RSウイルス病が関与した集団発生例で、乳用牛肉用牛の両方で流行が確認されています。

表 冬季から春先にかけて発生した牛RSウイルス病

市町村	流行時期	品 種	区 分	同居頭数	発 症	発症率
金ヶ崎町 ^{注)}	H 15.1	ホルス	ほ育・育成牛	100	50	(50%)
胆 沢 町	15.2	黒 和	乳用牛ET産子	55	55	(100%)
普 代 村	15.3	ホルス	搾乳牛	60	30	(50%)
岩 手 町	15.3	黒 和	育成・肥育牛	14	13	(93%)
江 刺 市	15.3	黒 和	肥育牛	100	25	(25%)

注1) 牛RSウイルス病と牛アデノウイルス病との混合感染



RSウイルス病とはどんな病気でしょうか？

- ・牛RSウイルスの感染によって起こる呼吸器病で、発熱、鼻汁、流涎、咳などいわゆる「かぜ」の症状を示します。
- ・ウイルスは感染牛との接触や咳などの飛沫によって伝播します。
- ・伝播速度が速く、しばしば集団発生となります。
- ・主に冬季に発生しますが、寒暖の差が大きい季節の変わり目の時期に発生しやすいとされています。
- ・回復までに2～3週間と比較的長い期間を要し、牛の発育遅延の原因ともなります。
- ・重症例では、ひどい呼吸速迫などから肺気腫を起し予後不良や他の病原体との複合感染などにより死亡する場合があります。

予防の方法はあるのでしょうか

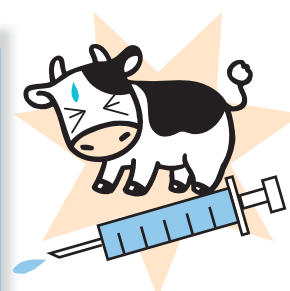
牛RSウイルス病を始め、ウイルス性の呼吸器病が発生した場合、症状に対する対症療法しかありません。また、抗菌剤の投与によって細菌の2次感染を抑えることは有効です。しかし、しばしば集団発生し、治療費、発育遅延及び死亡等により大きな経済的損失を受ける場合があります。

従って、これらウイルスによる呼吸器病対策はワクチン接種による予防が大切です。下記の5つの疾病について1種類のみまたは数種類混合したワクチンがあります。

病気のことやワクチン接種については、最寄の獣医師や家畜保健衛生所にご相談ください。

表 牛のウイルス性呼吸器病の症状とワクチンの有無

疾 症	疾 状	ワクチン
牛伝染性鼻気管炎 (IBR)	発熱、鼻汁、流涎、咳、呼吸困難	単味あり
牛ウイルス性下痢粘膜病 (BVD・MD)	下痢、発熱、咳、呼吸速迫	3混 4混 5混 —
牛パラインフルエンザ3型 (PI3)	発熱、鼻汁、咳、流産、乳房炎輸送熱の原因	単味あり
RSウイルス病	発熱、鼻汁、流涎、咳	単味あり
牛アデノウイルス7型 (AD7)	発熱、流涎、鼻汁、咳輸送熱の原因	—



酪農家の皆様へ～抗生物質残留事故防止の徹底を～

最近の乳質による生乳廃棄原因で最も多いのが抗生物質の残留です。治療牛が分からなくなってしまうことや休薬期間の確認ミスなどにより発生します。現場でできるリスク防止策として以下のことを徹底してください。

●治療するとき

- ・すぐにマーキングする
治療と同時にマーキングしてください。後でやろうと思っていると必ず忘れず
- ・派手なマーキング
カラスプレーやバンドを用い、治療牛が一目で、誰が見ても、どの方向から見ても分かるようにマーキングします
- ・治療した牛を治療牛記録簿に**記帳**。誰でも治療牛が分かるようにするためには記録が必要です

●搾乳前

- ・治療牛の確認
治療牛記録簿で治療牛の番号と頭数を**確認**
- ・作業者間の連携・連絡を徹底
- ・声掛け合って、うっかり事故を防ぐ

●搾乳後

- ・治療牛の生乳を廃棄したか確認
間違いなく治療牛の生乳を廃棄したか再確認。万が一ここで間違えてもバルク1個の廃棄で済みます
- ・治療牛のリストを再確認

●治療後

- ・出荷再開前には、必ず抗生物質の残留検査を申し込み、残留していないことを確認すること



※うっかりミスによる抗生物質の混入、バルクのスイッチの入れ忘れ、洗浄水の混入で生乳を廃棄しなければならないことほどもったいないことはありません。記録と確認を徹底して事故を防ぎ、安全で安心な生乳を生産しましょう。

◆◆◆◆◆ 畜舎の清掃・消毒について～安全性の高い「ドロマイト石灰」消毒～ ◆◆◆◆◆

家畜の病気予防に消毒は重要です。糞や尿で汚れた畜舎は病原体の感染源となるばかりでなく、アンモニアガスなどが発生し家畜にとって大きなストレスとなり、疾病発生の誘因となります。除糞、消毒を定期的に行い畜舎を清潔に保ちましょう。

石灰は消毒効果の持続性が高く、吸湿性があり畜舎の乾燥を促進する点でも有効性の高い消毒剤です。従来、生石灰が広く用いられてきましたが、水と反応すると高温を発するため取り扱いがやや難しい難点がありました。

マグネシウムとカルシウムの炭酸塩化合物である「ドロマイト石灰」は生石灰とほぼ同等の消毒効果がありますが、発熱が穏やかで水への溶解性も高く使い易い石灰です。石灰乳塗布や散布で用いられ、北海道の酪農家を中心に普及しつつあり、管内でも使用され始めています。

疾病対策には薬に頼るばかりでなく、衛生的な環境で家畜のストレスを減らすことも重要です。特に家畜の移動による空舎時や分娩前には消毒を心がけましょう。詳しい資料の必要な方は当所までお問合せください。



◆◆◆◆◆ 高病原性鳥インフルエンザについて ◆◆◆◆◆



鳥インフルエンザは鳥インフルエンザウイルスによって発生し、特に病原性の高いA型H5、H7の血清型を持つものが高病原性インフルエンザ（法定伝染病・以前は家禽ペストとよばれていた）、それ以外のものは鳥インフルエンザ（届出伝染病）に分類されています。高病原性インフルエンザは感染力が強く、症状は、突然死、呼吸器症状、顔面・とさかなどの浮腫、産卵減少・停止、下痢など多岐にわたり、死亡率は20～100%と高率です。

日本では真症の発生は80年近くありませんが、高病原性インフルエンザは今年も米国、ヨーロッパ、中国で発生し、安心はできません。このため、今年度防疫マニュアルが定められ、県でもモニタリングを実施しています。

万一発生した場合には家畜伝染病予防法に基づき殺処分や防疫対策が実施されますが、予防のため野鳥や愛玩鶏との接触の防止、オールイン・オールアウト、消毒などの衛生対策と異常鶏発生時の早期通報が重要です。



編集・発行

岩手県南家畜保健衛生所
岩手県南家畜衛生推進協議会

岩手県水沢市佐倉河字東館4 1-1
TEL 0197-23-3531 FAX 0197-23-3593
TEL 0197-24-5532 FAX 0197-23-6988